

薬物乱用防止実践事例

大館市立
花岡中学校

大館市立花岡中学校の取り組み

1 研究主題（目標）

学校・家庭・地域が一体となった薬物乱用防止教育への取り組みを推進し、学校における薬物乱用防止教育に関する指導の充実を図り、生徒の薬物乱用防止に対する意識を高める。

(1) 校内組織（推進委員会）

委員：校長、教頭、教務主任、研究主任、養護教諭、保健体育主任（生徒指導主事）

役割：薬物乱用防止教育にかかわる活動計画の立案及び運営

(2) 重点実践事項

授業研究や集会などを実践し、効果的な薬物乱用防止教育の在り方を探る。

地域・家庭と連携して、薬物乱用防止教育を効果的に進める。

実践を深めるために職員研修と資料の充実を図る。

2 年間活動計画

<平成17年度>

	活 動 内 容	推 進 協 力 校 ・ 事 業 等
5		<ul style="list-style-type: none"> ・第1回推進協力校打ち合わせ（本校） ・薬物乱用防止教育支援体制整備・活用モデル推進事業連絡協議会（東京～松田）
6	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教育キャラバンカー訪問 ・薬物乱用防止教育シンポジウム参加（東京～教頭） 	<ul style="list-style-type: none"> ・県薬物乱用防止教育支援体制推進委員会（県庁）
7	<ul style="list-style-type: none"> ・花岡地区保幼小中高合同PTA研修会（薬物乱用防止に関する講演会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回推進協力校打ち合わせ（大館工業高校） ・大館工業高校VTR制作への協力
8		<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教育研修会参加（大館工業高校） ・花岡発薬物乱用防止だよりNo.1大館工業高校担当
9	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者に対する意識調査 ・薬物乱用防止標語作成（国語科） 	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・標語のまとめ - 展示（学校祭） 	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止ポスター製作（美術科） ・保健体育科の授業実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・先進校視察（相模原市、横浜市～松田） ・花岡発薬物乱用防止だよりNo.2花中担当
12	<ul style="list-style-type: none"> 「たばこの害と健康」(1年) 「たばこの広告を考える」(2年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回推進協力校打ち合わせ（本校）

	「薬物乱用と健康」(3年)	
1	・薬物乱用防止教室(集会活動、講演)	・薬物乱用防止教育研修会参加(中央公民館) (実践報告会、講演会)
2		・県薬物乱用防止教育推進委員会(県庁)
3	・研究実践報告書提出	

<平成18年度>

	活 動 内 容	推進協力校・事業等
4	・薬物乱用防止看板設置式 ・薬物乱用防止の宣言文読み上げ	・第1回推進協力校打ち合わせ(本校)
5		・県薬物乱用防止教育支援体制推進委員会(県庁)
6	・薬物乱用防止教育キャラバンカー訪問	・工業高校VTR制作への協力
7		・3校合同薬物乱用防止教育PTA研修会(中央公民館)(講演会) ・花岡発薬物乱用防止だよりNo.3花小担当
8		・先進校視察(神戸市~松田)
9	・薬物乱用防止標語作成(国語科)	・第2回推進協力校打ち合わせ(本校)
10	・薬物乱用防止だよりNo.1発行	・花岡発薬物乱用防止だよりNo.4大館工業高校担当
11	・標語のまとめ-発表・展示(学校祭)	
12	・薬物乱用防止だよりNo.2発行	
	・保健体育科の授業実践	
	「たばこの害と健康」(1年)	
	「たばこの広告を考える」(2年)	
	「薬物乱用と健康」(3年)	
	・道徳の時間での実践(全学年)	
	「生命の尊重」等	
	・薬物乱用防止教育フォーラム(大館市民文化会館)11/22~3校合同 (実践報告・ロールプレイング、講演会)	
	・薬物乱用防止教室(集会活動、講演)	
	・薬物乱用防止だよりNo.3発行	

3 薬物乱用防止教育の実践について

(1) 生徒・保護者に対する意識調査 (H17.9)

大館工業高校で実施したアンケートを参考に、比較したい項目や薬物に関して把握したい項目についてアンケートを作成し、実施した。

その結果、生徒の飲酒経験率は秋田市より低いが、保護者の喫煙率は全国の傾向よりかなり高いという実態が分かった。(詳細は別紙P45「薬物乱用防止だよりNo.1」参照)

(2) 薬物乱用防止教育「キャラバンカー訪問」(H17.6.1 / H18.6.1)

生徒はキャラバンカー内でのゲームや資料の他、ビデオ視聴と元麻薬取締官の方からの説明及び質疑応答を通して薬物についての認識を深めることができた。生徒の感想のほとんどは、「分かりやすかった」、「薬物の怖さがよく分かった」などであった。

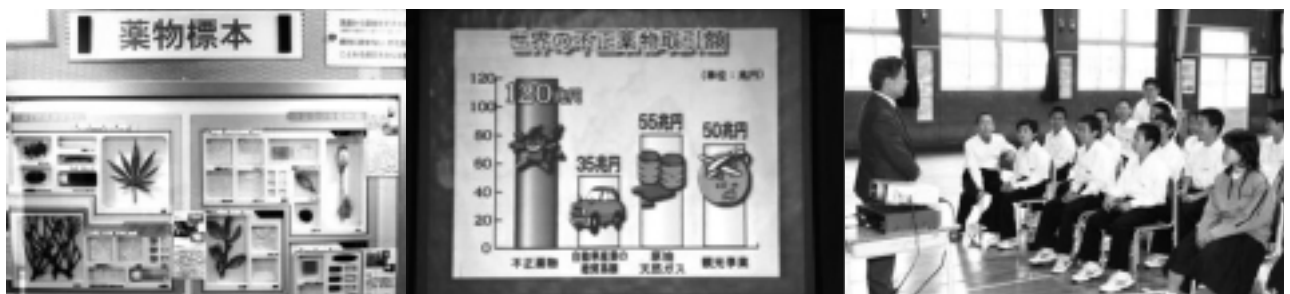
キャラバンカーの招聘については、年次計画に組み込んでいて、一年おきに実施しているが、今回は、昨年と今年の2年間で全学年が体験できるようにした。生徒は感想のとおり、予想以上に真剣に学習し、有効な活動となっている。

H176.1 キャラバンカーの中の様子



H186.1 の様子

元麻薬取締官の方からのお話



《生徒の感想から》

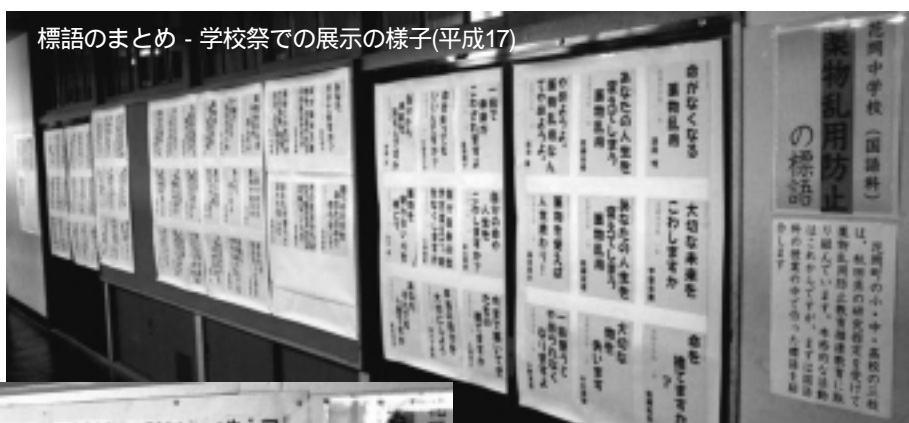
- ・薬物を乱用したらほとんどの人は一生もとの生活にはもどれないこと。
- ・覚せい剤などを使うと脳を壊してしまう。
- ・薬物を一度使うとまた使いたくなること。
- ・薬物は止めてもフラッシュバックが起きたりして、元に戻れないことが分かった。
- ・薬物の多さにビックリした。

- ・薬物を乱用すると治したくても治せなくなることが怖い。
- ・この学習で改めて薬物の危険性や怖さが分かったので、これからも気をつけたいです。
- ・薬物のことがたくさん学べた。一生使わない。
- ・風邪薬などの飲み方も気をつけたい。
- ・誘われてもゼツタイやりません！

(3) 薬物乱用防止標語作成 (H17.9 ~ 10 / H18.9 中旬)

国語科、単元「豊かな言葉」の時間において、生徒一人一人が標語の作成に取り組んだ。薬物乱用防止を考える良い時間となった。

作品については、学校祭に花岡小学校児童の作品と併せて掲示し、地域の方々に広く



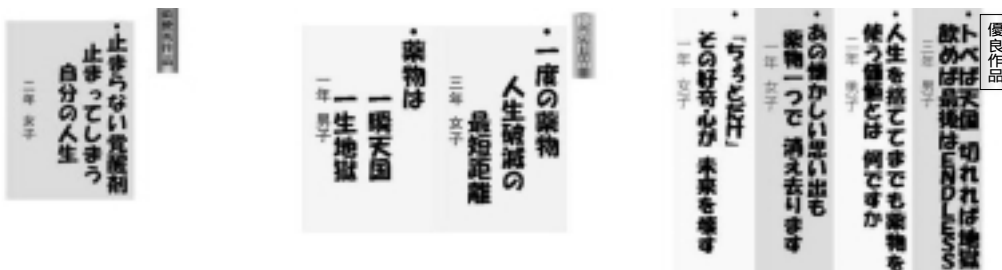
標語のまとめ - 学校祭での展示の様子(平成17)



18年度の標語の展示風景

紹介した。なお、18年度は校内でコンクールを開催し、優秀作品を学校祭で紹介するとともに、後日集会で改めて表彰した。学習したことを文字でまとめて表現することも一つのよい活動になっている。

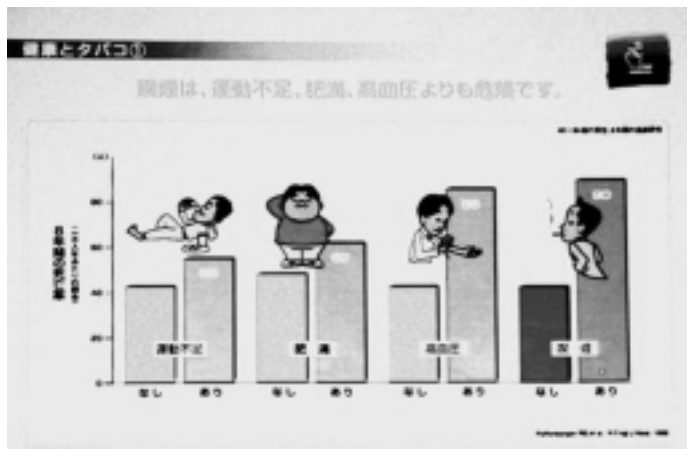
薬物乱用防止標語コンクールの優秀作品の紹介 (H18)

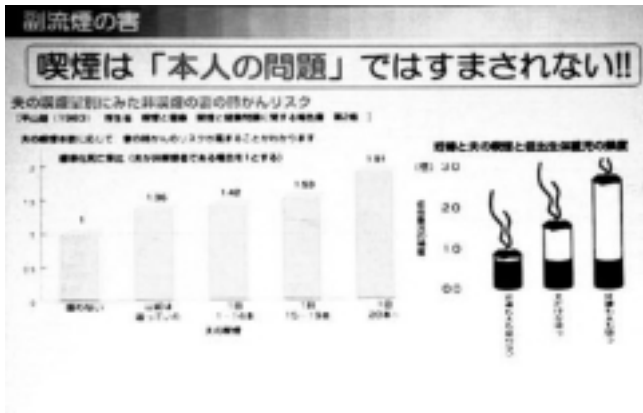


優良作品

(3) 保幼小中高合同P T A研修会 (H17.7.25)

市立総合病院の薬剤師、金沢久男先生を迎えて『子育てと健康～煙草、酒、薬物乱用が及ぼす影響～』と題して講話をいただいた。酒・たばこの害から始まる豊富で適切な表や写真等の資料で、保護者にも理解しやすく興味深いお話であった。





未成年(子供)の飲酒が及ぼす影響

- ・学習能力、集中力が低下する
- ・記憶力が低下する
- ・青年期の課題である考える力(抽象力や概念形成力)が発達しない
- ・対人関係の作り方の学習が障害される
 ⇒人と人の距離がなくなるため、苦悩することが少なくなる(子供は悩むことが必要)

・悩み考えて、先生・友人・親・兄弟に相談しよう

(5) 授業実践から (H17~H18)

国語科：薬物乱用防止標語作成 (全学年)「豊かな言葉」学習指導案 (略案) 参照

美術科：麻薬・覚せい剤乱用防止啓発メディアコンテスト (ポスター部門) 作品製作 (H17)
 努力賞、入選各 1 名 (2 年生)「伝達のデザイン」

保健体育科

ア「たばこの害と健康」(1年 H17.11.30)

実験を取り入れて五感(タールのにおい・色など)に訴える授業の試み



同上 (H18.11.27 学習指導案は別紙)



実験に用いたたばこ人形は昨年の自作のものに替え、市販のもの(スモーキング ガイ) 2 体を同時に使い実施した。吸引器(掃除機)を使い実際に喫煙している状況を実験して見せた。生徒の感想には、肺を模した真っ白い部分がみるみる茶色に変色していく様子に驚いたことが多く書かれていた。ただ、この実験では主流煙にあたる部分は室外に排出したが、副流煙が教室に残ってしまっているため、この点に関してはもう少し工夫し改善する必要があると感じた。

イ「薬物乱用と健康」(3年H17.12./18.12.13 学習指導案(略案) 参照)

視聴覚資料を活用して薬物乱用の実態の悲惨さを理解させるようにした。

実際には右の水谷修先生の「夜回り先生」のDVDから、

- ・タカシ ~ 虐待から非行に走った心優しい暴走族~
- ・マサフミの死 ~ 闘いの始まり~
- ・薬物汚染との飽くなき闘い
- ・アイ ~ シンナーに救いを求めた少女~
- ・薬物から逃れる4つの方法
- ・子どもたちへ ~ 君たちの花の種を育てよう~

を選択して視聴させた。

自らの薬物乱用者との交流体験を通じた水谷先生のお話は、生徒の心にしみていったようである。

また、「薬物から逃れる4つの方法」の中で紹介された断り方も、生徒に受け入れやすいものであった。



《生徒の感想から》 僕はこのビデオを見て、誘われたときの断り方や薬物の怖さについて知ることができました。薬物によって心、頭、肉体の順に殺されていくことに恐怖を覚え、絶対に薬物乱用しないという気持ちが一層高まりました。また、誘われたときに4つの方法、話題を変える、壊れたオーディオ、3D、逃げる、を忘れないようにしたいと思いました。 A男

ウ「たばこの広告を考える」(2年 H17.11./18.11.24 学習指導案(略案) 参照)

たばこの広告のターゲットは青少年であることに触れてから、たばこをはじめとする薬物を誘われた時、自分だったらどう断るのかを考えさせ、最後には代表者にロールプレイを演じてもらった。

この授業の中で、「死んでしまいたい」とか「自分はもうどうなってもいい」というような、心が危険な状態になったことがあるかという質問に対して、半数近くが「ある」と答えていることに驚きを隠せなかった。この心の不安定さは自尊感情や自己肯定感などが十分でないことの現れとも受け取れるので、いろいろ考えさせられた1時間であった。

《生徒の感想から》 吸っている本人より周りで吸わされている人の方が害が大きいなんて最悪だった。たばこは吸いたくない。(B男)

たばこなどの薬物は絶対使ってはいけないと思った。たばこの先から出る煙にも害があってひどいと思った。(A子)

たばこを吸う人より副流煙を吸う方がひどいなんて悲しい。ロールプレイは簡単だと思ったが、実際に友達に誘われたら断ることは難しいかもしれない。(C男)

道徳の時間(全学年) 「生命の尊重」等

ア 1年生「花によせて」(H18.11.9学習指導案(略案) 参照)

《生徒の感想から》 自分の体がどんなに不自由になっても、負けずに生きていくことができているすごいなと思いました。また、どんなことがあっても命を捨てないということで命の大切さが改めて分かりました。(B子)



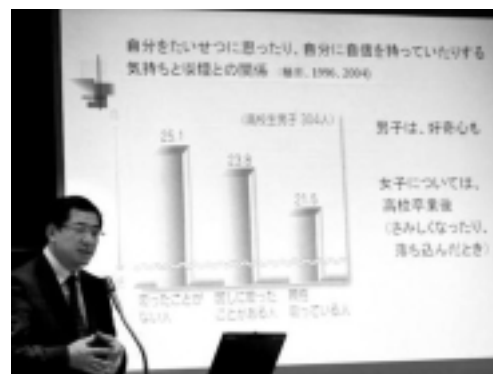
命とは何か?《生徒の感想から》

- ・一生に一度きりの自分。みんなを幸せにしてくれるかけがいのないもの。
- ・簡単になくなるものだが、生きようと生きさせようと思えば簡単にはなくならないものだと思う。
- ・自分の「一生」、この「命」をなくしてしまったら、もうこの世には帰れない。もうこれ以上、人の命や自分の命を捨てたり奪ったりしないでほしい。「他の人の命」や「自分の命」も考えて。

(6) 薬物乱用防止研修会・講演会 (H18.1.13)

前半は3校の実践報告を中心とした研修会で、後半は植田誠治先生の講演会とした。

講演会では、学校教育の中でどのように薬物乱用防止教育が進められるとよいのかということについて具体的なお話を聞くことができた。その中には喫煙と自尊感情との関連についても触れられていて、考えさせられることがたくさんあった。



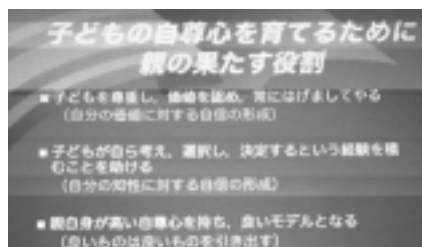
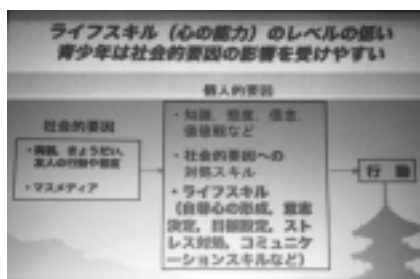
(7) 薬物乱用防止教育フォーラム・講演会 (H18.11.22)

午前中は各校児童生徒によるこれまでの取り組みの発表と、3校合同の児童生徒によるロールプレイングを行った。本校の発表は生徒がこれまでの取り組みから印象に残っていることを思い出しながら、生徒自身の言葉で振り返るという形で発表した。4名は進んで代表になっただけあって、これまでの取り組みのポイントを理解しており、私たちの思いは生徒に伝わっていることを感じた。



ロールプレイングの最後に出演者全員で行った薬物乱用防止宣言は、取り組みのまとめにふさわしいものとなり、参加した生徒に伝わるものがあった。

午後は川畑徹朗先生の講演を拝聴した。昨年度の植田先生よりも自尊心と薬物乱用との関係を強調されていた。薬物乱用に限らず、問題を抱えている生徒には自己肯定感が低い傾向が見られるので、この面を強化していく取り組みも大切であると改めて感じた。



《生徒の感想から》

講演会では『自尊心』を大切にすれば、酒・タバコ・薬物乱用をしにくいという言葉が心に残っています。...(略)...

NO DRUG!!を合い言葉にして生活していきたい。

(8) 薬物乱用防止教室 (H18.1.20)

内容 アンケート結果から (生徒会 保健委員代表 3名)

講話 講師 大館市立総合病院 主任薬剤師 金沢久男先生

事前のアンケート結果から分かった地域の実態と生徒の疑問に思っていることに加え、酒・たばこの薬物としての薬理作用に重点を置いてお話をしていただいた。

はじめに、地域の実態と生徒の疑問については生徒会保健委員に発表してもらうことで、薬物乱用教室に対する生徒の意欲付けをねらった。

金沢先生のお話は、写真のようにプロジェクタで豊富な図や資料を示しながら進められ、生徒も真剣に耳や目を向けていた。

生徒は、薬物乱用防止キャラバンカーや授業で学んだことに加え、今回、さらにより身近にある酒・たばこも薬物であるということを知ることができたようである。(詳細はP45薬物乱用防止だよりNo.1参照)



(9) 18年度 薬物乱用防止教室 (H18.11.29)

講師：佐々木内科医院長 佐々木隆幸先生

演題：「たばこ・酒をはじめとする薬物の本当の姿」

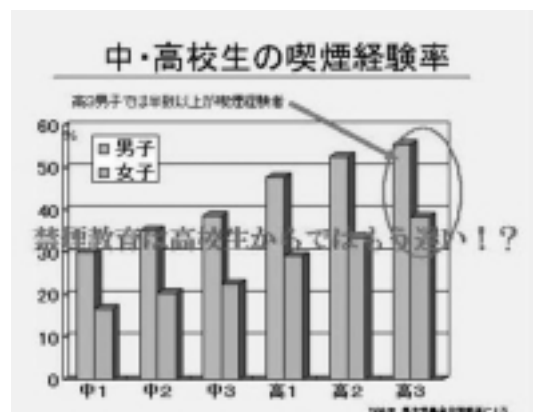
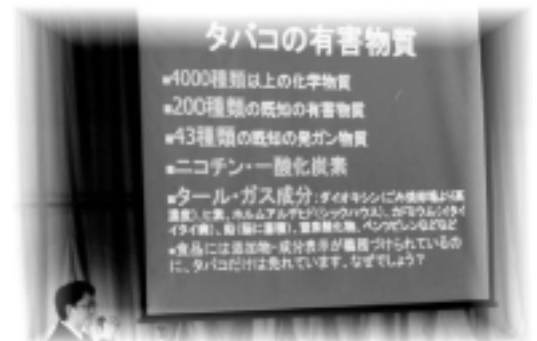
事前の取り組み

事前指導の中で生徒の知りたいことなどのアンケートをまとめたものと、本校としてお話ししたいことを依頼書に明記して講師の先生に届けた。今回も入門薬物(gateway-drug)である、「たばこ・酒」を中心にしながら、薬物の怖さである依存性にポイントを置いて話してほしい旨を伝えた。それは、事前の授業でそれまでに取り上げたことがあまり記憶に残っていない学年もあったため、繰り返し繰り返し訴えていくことが必要と思われたからである。

当日の様子

佐々木先生は新聞等にたばこや酒の害について記事を載せていて、医師会等でも何度かお話をしているとあって、資料は百数十枚のスライドを用意するなど豊富で、しかも論拠のしっかりしたもので熱意が伝わってきた。

(詳細は別紙P46薬物乱用防止だよりNo.3参照)



《生徒の感想から》今日は薬物乱用防止の話だと思ったら、たばこの話だったのでちょっと変だと思いました。でも、話を聞いているとたばこも薬物の一つなんだと思いました。

家ではたばこを吸う人がいて困っています。佐々木先生のお話はすごく詳しくてわかりやすかったです。たばこが原因でノドのガンになった人が手術してノドに穴を開けて、その穴でたばこを吸っていて信じられなかったです。さらにたばこが原因の病気のせいで足や指を切断していたりして、見ただけで自分の足や指もなくなっているような気がして怖かったです。

あと、お酒のことも話してくれました。お酒も脳に悪いことなどが分かりました。以前はお酒に好奇心をもっていました。今は嫌です。薬物には気をつけたいと思いました。 1年女子

ゼツタイにたばこを吸いたくないとしみじみ思いました。バージャー病等を見てもっとそう思うようになりました。たばこでこんなになるんだから薬物だったらどんなに害が大きいのか計り知れない。将来の子どものためにも、吸う側でなく禁止する方につきたいと心から思います。 2年男子

薬物乱用防止教室の話聞いてタバコの怖さや薬物等の依存症がわかりました。体に悪いものに限って依存性が強かったりして、前々から思っていたことですが、父や祖父にはたばこを止めてほしいと今回改めて思いました。 3年女子

(10) 学習指導案

保健体育科(H18.11.24) 大館市教育委員学校訪問

学級	教科名	単元・題材名	本時の学習目標	本時	授業者
2 A	保 体	たばこの広告 を考える (喫煙・飲酒・ 薬物に手を出 さないために)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>これまで学んだことを生かしなが、勧められたときに自分ならどう断るかを考えることができる。</p> </div> <p>導入・薬物乱用防止教育フォーラムの感想を出し合う。 展開・仲間から薬物などを誘われたときの自分なりの断り方を考え、実際に演じてみる。 終末・友達の断り方のうまくできたところを出し合い、ポイントを確認する。</p>	1 — 1	教諭 松田 良久

保健体育科 (H18.12.13)

学級	教科名	単元・題材名	本時の学習目標	本時	授業者
3 A	保 体	薬物乱用と 健康	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>これまで学んだことを確認し、さらに薬物乱用の実話を知り、薬物に手を出さない思いを強くもつ。</p> </div> <p>導入・薬物の恐ろしい特性を確認する。 展開・「夜回り先生」のビデオで、薬物乱用者の悲しい実際と、薬物を誘われたときの上手な断り方を知る。 終末・子どもたちへ～君たちの花の種を育てよう～を視聴し、感想をまとめる。</p>	1 — 1	教諭 松田 良久

国語科（H18.9 中旬）

学級	教科名	単元・題材名	本時の学習目標	本時	授業者
3A 2A 1A	国語	豊かなことば	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 表現を工夫しながら、薬物乱用防止を呼びかけるための標語作りをすることができる。 </div> 導入・前年度に作成した薬物乱用防止の標語の例から表現技法とその効果について話し合う。 展開・表現技法やことばの効果を考えながら、標語を作る。 終末・完成した作品を鑑賞しあいながら、薬物乱用防止について意識を高める。	1 1	教諭 小林きや子

道徳の時間（H18.11.9）

学級	教科名	単元・題材名	本時の学習目標	本時	授業者
1A	道徳	花に寄せて	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> かけがいのない命の尊さを自覚し、人間としての誇りをもって、力強く生きようとする心情を育てる。 </div> 導入・星野富弘さんの作品を見て、説明を聞く。 展開・資料を読んで、作品が人々に与えた感動と作者の強く生きようとする意志について考える。 終末・心のノートの「かけがえのない生命」のページを読み、自分の考えをまとめる。	1 1	教諭 成田 一彦

道徳の時間（H18.12.19）

学級	教科名	単元・題材名	本時の学習目標	本時	授業者
2A	道徳	ブラックジャック (ふたりの黒い医者)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 生命の尊厳について考え、かけがえのない自他の生命をいつくしみ、よりよく生きようとする心情を育てる。 </div> 導入・登場人物について説明し、資料への関心を高める。 展開・命の尊厳や有限性に気づかせながら、子どもたちや医師の行為について考える。 終末・心のノートの「生命を考える」のページを読み、生命とは何かを考える。	1 1	教諭 菊池 貴昭

4 成果と課題

(1) 平成17年度の反省

17年度は実質的に年度途中からの取り組みとなっしまい、十分な見通しをもって進めることができなかった。したがって、保健体育科以外の他教科での取り組みは計画的に実施できなかった。

保健体育科での薬物乱用防止の授業やキャラバンカー訪問、薬物乱用防止教室は効果的であったが、どちらかというと生徒への一方的な働きかけの部分が多く、生徒が活躍する部分をもう少し多くする工夫を感じた。

家庭や地域に向けて発信する取り組みをもっと充実させる余地があった。実践したことを簡単にまとめて紹介するだけでも意味があるのではないか。

追われるように取り組んだ1年目であったが、一連の活動の流れをつかむことができた。保健体育科ではこれまでも指導してきたが、他教科でも取り組みなどの在り方について考えてもらうことができた。何よりも取り組みに向かって動き出したことが大きな成果である。

(2) 平成18年度に向けて

集会などで興味・関心を高め、保健体育科を中心に知識・理解を深めさせ、それを他教科に広げたり、学級活動や道徳の時間でロールプレイングなど多様な方法で行動化を図っていったりするような指導を工夫していきたい。

地域への発信という点では、保・幼・小・中・高PTA研修会開催と薬物乱用防止だよりの発行および看板設置が中心であり、もう一つアピールが足りないように思われる。研究先進地視察で見てきたような生徒による発表を、例えば学校祭などの場を借りて実施することを考えていきたい。また、アンケート結果の活用についてもおたより等を利用し、一緒に考えてもらえる機会を作っていきたい。

校内に「薬物乱用防止コーナー」を設置し、関連資料をそろえ、置き場所などを考え活用しやすくするための工夫が必要である。

薬物乱用防止教育推進の授業や集会でも、生徒が活躍する場を意図的に多く設定していく。

(3) 2年間を振り返って

成果

ア 地域指定ということで小中高3校合同で行った取り組みでは、単独ではできない充実したものがあつた。

特に学区内にあつても合同の活動の機会が少なかった大館工業高校との交流では、地域の高校生との力のすばらしさを実感することになった。

イ 今年度は薬物乱用防止教育フォーラムに生徒も参加でき、学校での取り組みとあわせ繰り返し繰り返し学習できたことは、生徒に多くの貴重な体験と意識付けをさせることができた。各取り組みが終わったときの生徒の感想には「大切なことを学んだ」というような内容が大変多かった。

ウ これまでの成果などを具体的に把握するために行ったアンケート調査では、「喫煙してみたいか」という質問に関して、「No」という答えが昨年実施したアンケートの同項目より10ポイント向上している(82%→92%)。入門薬物(gateway-drug)であるたばこに関しての指導には力を入れているので、その面での取り組みに関しては一定の効果があがったと考えている。特に、3年生は全員が「薬物を誘われたときは絶対に断る」と強く答えていた。

課題

ア 本校独自の取り組みについては、行事としての取り組みに関しては概ね大きな成果を得ることができ

た。また、保健体育科だけでなく道徳の時間などへも広げることができた。しかし、授業研究面では年間計画への位置付けなど計画面では不十分な面があった。

イ 地域への発信はある程度できたが、地域を巻き込んでの活動となると、まだまだ改善の余地があるように思われる。この面に関しては当地域は児童生徒に対する安全・安心に関する団体が多く組織され機能していることから、その組織と連携を図りながら進めることで地域と一体の取り組みを考えていきたい。

ウ まとめのアンケートからは、1・2年生の4分の1以上が「悩みなどを相談できる友人がいない」、3年生は3分の1近くが「自分はだめな人間だと思うこと」が「よくある」と答えている。「時々ある」を含めると生徒は全校で半数を超えている。薬物乱用防止教育講演会でも触れられていたが、薬物乱用防止教育を効果的に進めるためには、このような生徒の実態を把握しながら、心の健康レベルの引き上げにも意識的に取り組んでいく必要を感じた。

これまでを振り返ると、先進地域の視察や、実際に取り組みをしてきた方の講演などからは非常に大きな収穫があった。当初は、なぜこのような地域で研究指定を受けるのかと疑問に感じていたことも事実であるが、17年度の研修視察では、このような薬物に対して免疫がない地域だからこそ薬物に関する教育が必要である。そして、18年度の研修視察で耳にした「秋田県での薬物に関する検挙者が少ないのは、都会に比べると薬物担当の警察官の数が圧倒的に少ないからであって、決して薬物を乱用している人が数字の通りに少ないのではない。」という言葉が強く印象に残っている。

インターネットや携帯電話が普及している今日、その気になれば地方でも薬物は入手できるし、実際、薬物乱用防止だよりNo.1でも触れているように、本校でも薬物を使用したことがあると答えた保護者はゼロではない。

情報化社会といわれる21世紀を生きていく生徒が、薬物乱用に陥ることなく「自分の生命は自分で守る」ことができるように様々な取り組みをしてきたことが、生徒の将来に大きく資することを願っている。

5 研究同人

平成18年度

校長 庄 司 裕見子
教 頭 佐 藤 久 生
主 事 杉 本 豪
養護教諭 畠 山 多鶴子
教 諭 小 林 きや子
教 諭 松 田 良 久
教 諭 岸 博 之
教 諭 本 多 牧 子
教 諭 成 田 一 彦
教 諭 日 景 美智子
教 諭 菊 池 貴 昭
教 諭 北 林 洋 子
教 諭 三 上 沙 織
心の教室相談員 土 門 節 子
校務主事 高 松 憲 仁
校務主事 若 狭 義 子

平成17年度（平成18年度以外）

校長 堀 内 和香子
教 頭 工 藤 あき子
校務主事 畠 山 千穂子

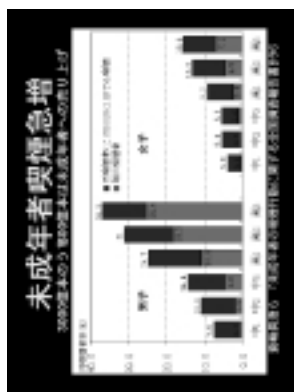
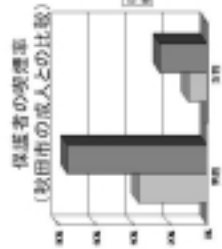
薬物乱用防止だより

花岡中学校 薬物乱用防止教育推進委員会

H.18.12.25 No.3

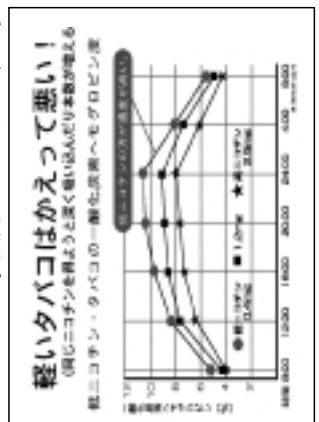
薬物乱用防止教室特集

11月29日(水)に、佐々木内科医院の佐々木隆幸院長先生(写真)をお迎えして本校の薬物乱用防止教室が行われました。そのときの様子を、佐々木先生から提供いただいた資料をもとにして振り返ってみたい。当花岡地区は下のグラフのように「保護者の喫煙率が非常に高い」という調査結果が出ています。ぜひご家庭でも話題にしている考えをきっかけていただければ幸いです。



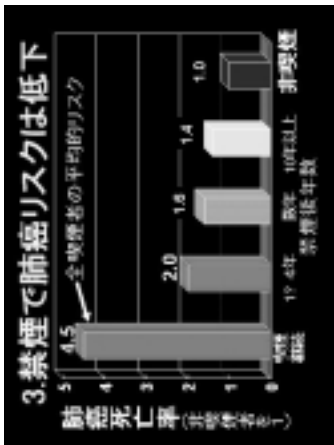
未成年喫煙者の増加が大きな社会問題になっている。たばこは他の薬物に手を染める前の入門薬物でもある。そのたばこは、依存性が非常に強くて、薬物に吸わされていくというのが実情であり、本人だけでなく周囲や社会にまで波及している。「ちよっと一服」ですること体内のニコチン濃度が一定のレベルに達し、ニコチン依存症の脳はそれで一瞬満足して、すっきりした感覚になる。作業能率は実際に低下しているのだが、...。(右図)

日本の事故等を含めた全死亡者数は2003年で約101万人。その約10分の1はたばこに関連するといわれる。軽いたばこにしたたり本数を減らしたり努力をしている人も出ると思うが、かえって逆効果の面もあるというデータも出された(下図)。減煙については20階から落ちるか10階から落ちるかという違いがある。大変かもしないが、どうせならしっかりと禁煙したほうがいい。



喫煙の害として、キレやすくなり犯罪者になりやすいという怖いデータも出された。出産後でも家庭内に喫煙者がいれば、その傾向は継続される。

日本のたばこの箱には「吸い過ぎに注意しましょう」と書いてある。しかし、「吸い過ぎとは1本からです」と「T自らが答えていることを、ほとんどの人は知らない。社会をよく、「たばこ税を支払っている分、社会に



禁煙してしまえば、たばこに起因する病気になる危険性はたばこを吸わない人に近い付いていく。また、老化促進剤ともいわれ、百害あって一利なし。たばこは一刻も早く、存続止めたい。なお、ニコチン依存症は脳気として認められているので、治療は保険が適用になる。佐々木内科医院でも、受付して治療を受けると、身体的依存は3日で抜ける。心理的依存は数週間かけて抜いていくことができる。女性は子どもへの影響が特に大きいので、喫煙というたばこ依存症から早く抜けたい。善は急げ。自分のため、家族のため、社会のために。

酒の害にも触れ、やはり若い人ほど健康への影響は大きくなる。たばこはコカイン・ヘロインと同等かそれ以上の強い心理的依存性があるのに対して、アルコールはモルヒネという薬物に次ぐ強い身体的依存性をもっている。いったんはまれば、たばこ以上にやっかいな病気になる...

私の父はタバコを吸っています。ただし、薬物乱用防止教室は、とてもタバコの真実をついていると思います。少し生々しい画像もありましたが、あれがタバコの本当の姿だと思います。しっかりと見ました。三年間のこの教室を通して、タバコ・DRUG・アルコールは本当に体に悪いのだと、深く考えさせられました。(3年女子)

貢献している」という人もいますが、実際には、社会の負担となつていて、その方がはるかに大きい(下図)。



タバコは老化促進剤!

田呼吸器病が湧くる
40代の喫煙者→70代の老化促進

① 血管が老化 (高コレステロール減少)
・ 高血圧・心臓病・脳卒中・癌...

② 肌荒れ・しわが増える・げげやすい
・ 体臭がもろくなる

③ インポテンツ・月経不順になりやすい
・ 産後うつ・...

最後に、生徒の感想を載せます。ご家庭でも話題にされ、「家族にとつての健康で安全な生活とは」を考えていただければと思います。

私の父はタバコを吸っています。ただし、薬物乱用防止教室に参加してからは、私の部屋、私の目の前で吸わないようにしてもらっています。私は父が禁煙してくれれば一番いいと考えているのですが、どうしてもやめられないようなので、しかたなく吸う場所の指定だけをお願いしています。
佐々木先生の薬物乱用防止教室は、とてもタバコの真実をついていると思います。少し生々しい画像もありましたが、あれがタバコの本当の姿だと思います。しっかりと見ました。三年間のこの教室を通して、タバコ・DRUG・アルコールは本当に体に悪いのだと、深く考えさせられました。(3年女子)